



横浜市指定管理者第三者評価制度

# 横浜市少年自然の家 南伊豆臨海学園 評価シート



横浜市

評価機関：

東京海上日動ファシリティーズ株式会社

# 少年自然の家 評価シート 目次



I. 総則	1
I-1 施設の目的や基本方針の確立	1
I-2 施設目的の達成度	2
I-3 職員の勤務実績・配置状況	3
I-4 職員のマナー	4
I-5 開館の実績	5
II. 施設・設備の維持管理	6
II-1 建物・設備の保守点検	6
II-2 備品の管理	7
II-3 清掃業務	8
II-4 警備業務	9
II-5 外構施設の保守点検業務	10
II-6 植栽・樹木等の維持管理業務	11
II-7 厨房施設の衛生管理業務	12
II-8 ゴミゼロ推進運動への取組	13
III. 運營業務及びサービスの質の向上	14
III-1 利用実績	14
III-2 利用しやすい施設案内の実施	16
III-3 適切な利用情報の提供	17
III-4 情報提供の実施	18
III-5 サービス水準の確保	19
III-6 職員間での情報共有化	20
III-7 個人情報の保護	21
III-8 事故防止対策への取り組み	22
III-9 事故発生時の対応体制の構築	23
III-10 災害発生時の対応体制の構築	24
III-11 利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築及び解決体制	25
III-12 食事提供の実施	26
III-13 自主事業の適切な実施	27
III-14 自主事業における独自の工夫等	28
III-15 野外活動教室事業の適切な実施	29
III-16 利用者支援業務の実施（施設全体）	30
IV. 地元の町・村及び横浜市等との交流・連携	31
IV-1 地元の町・村及び地域との交流・連携	31
V. 収支状況	32
V-1 指定管理料の執行状況	32
V-2 収支決算状況	33
V-3 自主事業収入実績	34
V-4 経費節減の取り組み	34
VI. その他	35
VII. 評価結果のまとめ	36

## I. 総則

### I-1 施設の目的や基本方針の確立

少年自然の家の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、職員が理解しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	職員に対し、少年自然の家の設置目的に基づいた施設運営上の基本方針が明文化されている。	✓		✓	
	職員が、少年自然の家の設置目的や施設運営上の基本方針を理解している。	✓		✓	
	利用者に対し、少年自然の家の設置目的や施設運営上の基本方針を周知している。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>少年自然の家の設置目的に基づいた南伊豆臨海学園の基本方針を理解したうえで、気軽に利用される施設運営を目指している。</p> <p>基本方針・設置目的は玄関ホールと事務所内の掲示、HPによる公開などで周知している。</p> <p>職員は名札の裏側に基本方針を明記し、常に確認できる状態にしている。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>A項目①③ 明文化された基本方針が玄関(事務室入口)、事務室内に掲示してある。</p> <p>また、施設の利用案内パンフレットにも記載されている。</p> <p>A項目② 08年4月4日のスタッフミーティングで基本方針について園長から全職員に説明されている。</p> <p>職員の理解度については、ヒアリングで確認済。</p>		
<p>【改善すべき点・課題等】</p>			<p>確認書類</p> <p>・利用案内パンフレット</p>		

I-2 施設目的の達成度

施設の管理運営を通して、施設目的を達成できているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	利用団体及び利用者数の向上に対する取り組みが行われている。	✓		✓	
	新規プログラム開発の取り組みが行われている。	✓		✓	
	野外活動教室の事業を実施して、青少年の健全育成を図る目的を持った取り組みをしている。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>HP、チラシ、広報紙(いくはま)などで教室事業の広報活動を行っている。シーカヤックやカッターといった海の活動を通じて協調性、自主性を育む教室を行っている。</p> <p>自然の素材を用いたクラフトやビーチコーミングなどのエコを意識した新規プログラムの開発に取り組んでいる。</p> <p>青少年だけでなく、幅広い年齢層の利用を視野に入れた家族フリープランを企画し、利用率の向上を図っている。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>A項目①②③</p> <p>・プログラムは、施設内で話し合った結果を体育協会事務局と検討し、決定している。</p> <p>地理的条件等もあり、プログラムの種類は海のものに固定されがちだが、内容を工夫し、新規プログラム開発に取り組んでいる。</p> <p>・自主事業の教室参加者数は215名(H17年度)、260名(H18年度)、260名(H19年度)と伸びている。また、閑散期の施設利用率を向上させるべく設定された一般家族用の宿泊利用数も97名(H17年度)、104名(H18年度)、447名(H19年度)と伸びている。</p> <p>・夏の野外活動教室等の自主事業も常に定員以上の応募があり盛況であるため、より多くの利用者を受け入れるために、冬季の自主事業を新たに企画するなど工夫中である、とのこと。</p>		
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

I-3 職員の勤務実績・配置状況

管理職を含む常勤職員及び非常勤職員の勤務実績、配置状況は適切か。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	各業務に対し、必要最低限の職員を配置している。	✓		✓	
	各職員は、他の職員の業務状況を適切に把握している。	✓		✓	
	B 事業計画書の職員体制と実際の体制に相違がない。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>統括責任者である園長のもと、維持管理責任者、運営責任者、保健衛生責任者、給食食堂責任者、維持管理担当者、運営担当者の合計7名で利用者の受付、安全管理やプログラム指導を行っている。</p> <p>利用団体の活動内容に併せ必要に応じた職員を配置するシフト表を作成し、臨機応変な業務対応を行い、円滑な施設運営に取り組んでいる。不測の事態に備え、職員は全員の勤務を把握し、万一の場合は、園長に連絡のうえ、すみやかに対応している。</p> <p>また、全ての職員が開閉館の手順を把握し対応している。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目①②、B項目 常時、最低2名を配置している。(宿直1名あり)</p> <p>職員・スタッフの配置表だけでなく、施設利用スケジュール表についても色などを工夫し、わかり易く記載されている。</p> <p>事務室には大きなホワイトボードがあり、1日ごとの職員の業務配置が記載されているため、職員の所在が明確になっている。</p> <p>確認書類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シフト表</li> <li>・ホワイトボード</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

I-4 職員のマナー

利用者が気持ちよく利用できるよう、利用者に対する職員の接客マナーは適切か。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	利用者が職員だと判別できるよう、名札を着用している。	✓		✓	
	職員の服装は適切である。	✓		✓	
	電話対応の際、施設名及び職員名を名乗っている。	✓		✓	
	挨拶や対応の際の言葉遣いや態度が丁寧である。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>全職員が名札を着用し、利用者に安心して利用いただけるような雰囲気をつくっている。利用者対応については、研修を行いサービス向上を図るほか、日ごろから職員間でマナーについての話し合いを持ち、利用者に不快感を与えないように努力している。</p> <p>聴覚の不自由な方にも安心してご利用いただけるよう、受付に「筆談できます」の掲示をし、メモ用紙と筆記具を用意している。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>A項目①②③④</p> <p>全職員・全スタッフがふりがなのついた名札を着用しており、ブルーのジャンパーで統一していて、分かり易い。</p> <p>また、電話や来館時の挨拶は明るい声で対応しており、大変気持ち良い。</p>		
【改善すべき点・課題等】					

I-5 開館の実績

仕様書に定められた、もしくは事業計画書のとおり開館しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	仕様書に定められた、もしくは事業計画書のとおり開館している。	✓	A	✓	A
B	-	/		/	
C	仕様書に定められた、もしくは事業計画書のとおり開館していない。	/		/	
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<b>【アピールポイント】</b> 仕様書のとおり開館している。		<b>【特記事項】</b> A項目 宿泊利用者がいる日は24時間稼働しており、宿直1名体制。 パンフレットには休園日(12/28~1/4)が記載されている。			
<b>【改善すべき点・課題等】</b>		確認書類 ・利用案内パンフレット ・横浜市少年自然の家 指定管理者 共通業務の基準			

## II. 施設・設備の維持管理

### II-1 建物・設備の保守点検

建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	目に見える損傷等がなく、利用者が常に安全に利用できる状態に保たれている。	✓		✓	
	発見された不具合が適切に処理されている。	✓		✓	
B	事業計画書のとおり管理が行われている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>日常点検についてはチェックシートに基づき実施している。また、その結果異常等が発見された場合は連絡ノートを用いて職員全員が内容を把握し、緊急時対応を万全におこなっている。危険箇所等はまず職員でできるものについては職員が補修し、内容に応じて業者に依頼している。委託業務における点検についても、必ず職員が作業状況、内容を把握し、異常の有無を確認している。修繕については体協事務局と話し合いのうえ、横浜市とも協議をしながら進めている。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目①②</p> <p>チェックシートに則り、館内の確認を行っている。また、2月より施設全体の改修工事が始まり、同時に不具合の処理・修繕も行われる予定。</p> <p>B項目</p> <p>H20年業務より確認</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 汚水処理施設点検 1/週(点検報告書より確認)</li> <li>・ 受水槽点検 3/11</li> <li>・ 消火栓設備点検 4/11、10/28</li> <li>・ ボイラー点検 10/15</li> <li>・ 高窓開閉装置点検 12/16、3月実施予定</li> <li>・ 高圧受変電設備点検 1/2月(点検報告書より確認)</li> <li>・ 消防設備点検 10/24(11/14届出済)</li> </ul> <p>なお、仕様書には、「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」(建築物衛生法)に則り空気環境測定を行うと記載されているが、本建物は延床面積が 3,000 m<sup>2</sup>を超えておらず、建築物衛生法の適用外である。その点を横浜市との相談の上、空気環境測定は示威しされていない。市と仕様書の記載内容の見直しを行われることを推奨します。</p>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>		<p>【推奨事項】自家用電気工作物の定期点検の際に業者より改修要請のある項目で今年度まで未改修のものがあつた。改修要請の出ている箇所が「高圧受変電設備」ではなく、その他の電気設備の軽微な問題であるとの現場判断をしたうえで年度末に改修する方針を採つたとのこと。電気工作物の軽微な改修要請は数箇所まとめて改修工事を実施する方が費用節減に繋がることは確かですが、法定点検での改修要請事項については保守点検報告書のコピーを見ている体育協会本部設備課と相談のうえで出来るだけ早く対応することを推奨します。</p>			

II-2 備品の管理

施設の備品が適切に管理されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	備品台帳に記された備品がすべて揃っている。	✓		✓	
	少年自然の家の備品に目に見える損傷等がなく、良好な状態を保っている。	✓		✓	
B	少年自然の家の備品と指定管理者の備品を区別した備品台帳を作成している。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>備品台帳は購入、廃棄等で増減が発生した場合、速やかに更新作業をおこなっている。指定管理者所有備品の台帳は体育協会事務局にて一括で作成・管理しており、常にグループウェア上に最新データが存在するようにしている。備品は適宜確認し、損傷、不具合がないようにしている。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目①</p> <p>備品台帳よりランダムに5つ選び、確認済。</p> <p>1. 食器洗浄器 厨房</p> <p>2. 食器保管庫 厨房</p> <p>3. フライヤー 厨房</p> <p>4. 印刷機 事務所</p> <p>5. 16mm映写機 事務所</p>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>		<p>A項目②</p> <p>チェックシートに則り館内の確認を行っている。</p> <p>なお、毎日チェックする項目と月1回など頻度が低い項目をわかり易く分けてチェックシートを作成することを推奨。</p> <p>B項目</p> <p>全て指定管理料の中で購入しているが、大分類として所有の区別ができる設定になっている。</p> <p>確認書類</p> <p>・備品台帳</p>			

Ⅱ-3 清掃業務

利用者が快適に利用できるよう、清掃が行き届いているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	事業計画書のとおり業務が実施されている。	✓		✓	
	目に見える埃、土、砂、ゴミ、汚れ等がない状態を維持し、不快感(見た目、悪臭等)を与えず、衛生的な状態が保持されている。	✓		✓	
	消耗品の補充が適切に行われている。	✓		✓	
	発見された不具合が適切に処理されている。	✓		✓	
B	—				
C	Aに該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>日常清掃は、常に快適な生活空間を提供出来るように心がけている。共用スペースについては、毎日、利用状況に応じて点検清掃を行い、衛生物品の補充等も併せて行っている。宿泊室等利用者が使用している空間については、退園後点検清掃を行い、備品類、寝具などの汚れや破損があれば速やかに交換や修繕をし、良好な衛生状態を保っている。</p> <p>専門業者に依頼している定期清掃については、職員が清掃状況の確認を行っている。</p> <p>事務室は日直者が清掃し、合わせて防火確認、施錠、不審物の発見などを行っている。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>A項目①</p> <p>H20年度定期清掃実施記録を確認。</p> <p>ガラス・網戸清掃 11/8～16、5/7～11</p> <p>受変電室清掃 3/6</p> <p>寝具クリーニング 4/23</p> <p>A項目②</p> <p>日常点検チェックシートに基づいて点検が行われており、衛生的な状態が保持されている。</p> <p>A項目③④</p> <p>適切に消耗品が補充されており、不具合についても発見した際には、応急処置を職員で積極的に行うなど、迅速に対応している。</p>		
<p>【改善すべき点・課題等】</p> <p>職員では管理が難しい高所の清掃は業者に依頼する。</p>			<p>確認書類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画書(H20)</li> <li>・業務日誌</li> </ul>		

II-4 警備業務

安全で安心感のある環境を確保しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	鍵の管理方法が明確になっている。	✓		✓	
	日常、定期的に館内外の巡回を行い、事故や犯罪を未然に防止するように努める。	✓		✓	
B	事業計画書のとおり業務が実施されている(機械警備の設置状況の確認等)。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>鍵の管理を明確にし、毎日、館内外の見回りを行い、宿泊利用の際には、宿直勤務1人を配置して22時に消灯、施錠の確認、館内の巡回を行い、防犯、防火及び防災に努めている。宿泊のない夜間と休館時には、警備業者に機械警備業務を委託している。防犯上の観点から宿泊室のドアを施錠できるよう改修した。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>A項目①② 日常的にチェックシートに基づき巡回を行って確認をしていると共に、最終退出時のチェックシートに基づき、キャビネットのチェックを行っている。</p> <p>B項目 SECOM保守点検報告書を確認 (2008.11.20) 点検内容:動作テスト、信号送出テスト</p>		
<p>【改善すべき点・課題等】</p> <p>念のため定期的な警察官の巡回を依頼する。</p>					

II-5 外構施設の保守点検業務

外構施設が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	利用者が安全に利用できる状態に保たれている。	✓		✓	
	発見された不具合が適切に処理されている。	✓		✓	
B	事業計画書のとおり業務が実施されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>日常点検については、チェックシートに基づき、毎日点検を実施している。その結果、異常が発見された場合は、連絡ノートを用いて職員全員が内容を把握し、緊急時対応を行っている。</p> <p>駐車場の拡幅をしたため、バスが園内まで入れるようになり安全に乗降ができるようになった。また、フェンスを張替え、玄関前の階段に手すりをつけるなどの安全対策を行った。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目①② 委託業務はなく、全て職員にて管理している。日常点検についてはチェックシートに基づき実施している。また、実施した業務については、業務日誌に記載し、職員間の情報共有も行っている。</p> <p>B項目 業務日誌により確認済。 実施業務:排水溝清掃 4/10、6/5、8/26、12/22</p>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>		<p>確認書類</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業計画書(H20)</li> <li>・業務日誌(H20)</li> </ul>			

II-6 植栽・樹木等の維持管理業務

施設内の植栽・樹木等が適切に管理され、利用者が快適に過ごせるような良好な景観が保たれているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	落葉や雑草の繁茂等が放置されておらず、美観が保持されている。	✓		✓	
	植栽に不具合が生じた際は適切に処理されている。	✓		✓	
B	事業計画書のとおり業務が実施されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<b>【アピールポイント】</b> 事業計画書のとおり、除草、中低木剪定、排水溝の清掃作業を行なっている。その他、落ち葉などが降り積もった場合は職員がそのつど清掃している。また台風などで植栽に不具合が生じた際は職員が適切に処理している。		<b>【特記事項】</b> A項目①②、B項目 外構と同様、職員により管理されている。 実施業務：除草、中低木の剪定 4/4、6/9、8/20、11/7			
<b>【改善すべき点・課題等】</b>		確認書類 ・業務日誌(H20)			

II-7 厨房施設の衛生管理業務

厨房施設の衛生管理が適切に実施され、常に清潔な状態が保持されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	事業計画書のとおり業務が実施されている。	✓		✓	
	横浜市学校給食衛生管理総合マニュアルの基準に沿って実施している。	✓		✓	
B	—	/		/	
C	Aに該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p><b>【アピールポイント】</b></p> <p>日常的な整理・整頓や清掃などの作業で衛生管理に努めている。厨房施設や設備の日常点検や定期点検を行い安全で衛生的な給食が提供できるように環境整備を図っている。マニュアルに沿って日常点検を行い食中毒の防止に努めている。日頃から厨房職員に衛生管理について指導している。ニュースや他施設で起きた事故等があった時には直ちに情報を伝え、注意喚起を行っている。</p> <p>衛生管理強調日(月3日)・月間清掃実施日をもうけて、衛生管理に努めている。</p>			<p><b>【特記事項】</b></p> <p>A項目①②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校給食衛生管理マニュアルも参考にして静岡県の保健所の指導による衛生チェックリストを使用している。</li> <li>・ 厨房業務は学園協力団体がっており、朝のシフト 3~4 名、夕方のシフト 3 名が勤務し、常にシフトに学園協力団体の正社員が入っている。</li> <li>・ 厨房職員は出勤時に健康調査表を記入提出している。シフト勤務者のうちの正社員が衛生管理の責任者として厨房内の作業を監督し、衛生チェックリストを記入し、給食食堂責任担当の学園職員に提出している。厨房内作業の衛生管理責任者となる外部業者の正社員全員が学園の給食食堂責任者とともに保健所の食品衛生講習会を履修している。</li> </ul>		
<p><b>【改善すべき点・課題等】</b></p>					

II-8 ゴミゼロ推進運動への取組

横浜G30プランに則ったゴミゼロ推進運動へ取り組んでいるか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	ごみの発生抑制に取り組んでいる。	✓		✓	
	再利用・再使用に取り組んでいる。	✓		✓	
	リサイクルに取り組んでいる。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>南伊豆町の分別法に従って処理をしている。利用者へはゴミの持ち帰りをうながす掲示をして発生の抑制をはかっている。ごみ減量化のために、学園ではスチール缶よりも紙パックや再利用できるペットボトルなどの飲料水を提供している。コピー用紙は裏面の再利用を積極的に行っている。職員が率先してゴミの分別を徹底し、減量化、リサイクルに取り組んでいる。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>南伊豆町の分別方法に則っており、ゴミの削減に努めている。</p>		
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

### Ⅲ. 運營業務及びサービスの質の向上

#### Ⅲ-1 利用実績

評価実施直前の2年間の利用実績及び施設稼働率の推移につき、半期毎(4月から9月、及び10月から3月)の状況を確認する。

別紙に記入

平成 年度 月～ 月分利用状況

施設名( )

(単位:人)

区分	日帰利用		宿泊利用			月合計			年度累計		
	団体数	実人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員
学 校	1 幼稚園					0	0	0			
	2 小学校					0	0	0			
	3 中学校					0	0	0			
	4 高等学校					0	0	0			
	5 特別支援学校					0	0	0			
	6 大学・専門学校					0	0	0			
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
青 少 年	7 青少年団体					0	0	0			
	8 青少年グループ					0	0	0			
	9 機関団体事業					0	0	0			
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
一 般	10 職域					0	0	0			
	11 地域					0	0	0			
	12 家族・グループ					0	0	0			
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 学 他	13 指導者団体					0	0	0			
	14 自主事業					0	0	0			
	15 視察・下見・見					0	0	0			
	16 その他					0	0	0			
計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月合計	0	0				0	0	0			
年度累計											

1. 開所日及び施設利用日数率 ※1 (単位:日)

開所日数		利用日数	
開所累計		利用累計	

施設利用率	#DIV/0!
-------	---------

2. 利用人員による施設利用人員率 ※2

	団体数	利用人員	利用率
実数			
延数			

3. 男女別・累計(月～月分) (単位:人)

	男性	女性	合計
幼稚園			
小学校			
中学校			
高等学校			
特別支援学校			
大学等			
青少年			
一般団体			
その他			
合計			

4. 宿泊別(月～月分) (単位:人)

	団体数	実人数	延人数
日帰り			
1泊2日			
2泊3日			
3泊4日			
4泊以上			
合計			

※1 施設利用日数率＝利用日数／開所日数×100 (%)

※2 施設利用人員率＝延利用人数／(定員×開所日数)×100 (%)

指定管理者記入欄	第三者評価機関記入欄
<p>【アピールポイント】</p> <p>少子化が進むなか、稼働率、利用者数ともに提案書及び事業計画書の目標値を上回っています。</p>	<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学校の年間行事日程の関係上、学校が本施設を利用できる期間は限定されており、その期間については本施設はフル稼働している。(平成19年度4～9月期の利用人員率 68%、10～3月期は 13%、通年では 41%。学校が夏休み中は利用を避けることを考えれば4～9月期の 68%の利用人員率は夏休み期間中以外は学校利用によりほぼフル稼働していることを示す。)</li> <li>自主事業の教室参加者数は215名(H17年度)、260名(H18年度)、260名(H19年度)と伸びている。また、閑散期の施設利用率を向上させるべく設定された一般家族用の宿泊利用者も97名(H17年度)、104名(H18年度)、447名(H19年度)と伸びている。</li> </ul>
<p>【改善すべき点・課題】</p>	

Ⅲ-2 利用しやすい施設案内の実施

利用者が利用しやすい施設案内を実施しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	施設内の相談場所が整理されている。	✓		✓	
	電話やHP等により、利用相談を受付けている。	✓		✓	
	スタッフが利用者の相談に適切に対応できるよう、対応サービス等の研修体制を確立している。	✓		✓	
	利用者に分かりやすく説明できるよう、説明資料を用意している。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>職員が来館者への声掛けを常におこない、初めて来館した方でも迷わず利用ができるよう案内している。施設見学や利用相談はいつでも対応可能である。電話での相談はもちろんHP上で申請書類がダウンロードできるなどの環境整備をしている。H19年度に接客研修を行った。全職員が利用者に対し、同様に案内説明ができるようマニュアルを作成し対応している。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目①② 相談内容を業務日誌に記載し、職員間の情報共有を行っている。</p> <p>A項目③ 研修は、本部職員が施設にきて行うものであり、施設職員・スタッフへのテストも実施している。</p> <p>A項目④ 横浜市体育協会の管理運営マニュアル内に接客の項目があり、その内容を基に研修を個別に実施している。 また、施設の説明マニュアルも用意しており、夏の抽選会時に団体の代表者にしおりを配布し、家族利用の方には希望者のみに配布し、見学の際には全員に資料を使って説明している。</p> <p>確認資料 ・利用の手引き</p>			
【改善すべき点・課題等】					

Ⅲ-3 適切な利用情報の提供

すべての利用者が等しく利用情報を得ることができるよう、適切な利用情報の提供を行っているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)		
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A		
	サービスの情報や施設利用案内を記載したパンフレット・掲示物等を作成している。	✓		✓			
	情報提供に当たっては、わかりやすい言葉遣いや写真・図・絵等を活用し、誰にでもわかるような工夫を行っている。	✓		✓			
	見学などの希望に対応している。	✓		✓			
B	次のすべてに該当する。	✓		A		✓	A
	指定管理者の名称や指定期間、概要等について館内の掲示板やHP等で利用者に周知している。	✓				✓	
	事業計画書・事業報告書を公表している。	✓				✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。						
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄					
<p>【アピールポイント】</p> <p>館内の案内表示や掲示物については、イラスト等を使用したり、色を区別してわかりやすいディスプレイを心掛けている。学園のHPで利用の手引きやリーフレットがダウンロードできるほか、要望があれば直接、郵送している。また、チラシやHPには文書だけでなく実際の写真や絵を使用して見やすい、わかりやすい構成にしている。</p> <p>事業計画書・事業報告書は教育委員会のHPから閲覧できるようにしており、受付で要望があれば閲覧できるよう案内している。</p> <p>連絡のない急な下見や見学についても柔軟に対応している。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目①② 写真や地図を用い、大変分かり易いパンフレットや自主事業ポスターを作成している。</p> <p>また、玄関ホールには施設平面図があり、部屋の配置がわかり易くなっている。また避難経路図は各部屋に掲示されており、十分情報提供がされている。</p> <p>B項目①② 指定管理者の名称、事業計画書・報告書は閲覧できる旨について、施設入口に掲示している。</p>					
<p>【改善すべき点・課題等】</p>							

Ⅲ-4 情報提供の実施

当該施設及び野外活動全般に関する情報提供を実施しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	チラシやPR誌を作成する等、施設情報を提供し、積極的に広報・PR活動を実施している。	✓		✓	
	他施設の野外活動情報を収集・提供する仕組みを構築している。	✓		✓	
	提供されている野外活動情報は、市民の自主的な野外活動を促進する内容となっている。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>HPで施設の外観や宿泊室・設備を写真で見ることができ、申請方法や教室内容が分かるようにしている。また、リーフレットを作成し、村役場などで配布している。</p> <p>自主事業はインターネット募集を行うとともにチラシを作ってスポーツセンターやイベントで配布している。また市の広報紙「いくはま」にも掲載し積極的な広報をしている。館内に地元観光施設や他の公共施設、赤城や青少年野外活動センター4施設のチラシ・パンフレット等を置いて情報提供を行なっている。</p>		<p>【特記事項】</p> <p>A項目① 利用日程、宿泊料金、申込み方法が記載されており、施設の食事の写真なども掲載されている。 教室事業は全て体育協会本部でチラシを収集・印刷し、横浜市内公共施設に配布している。また、プログラムは本部でチラシを配布すると共に、HPでも公開し、予約受付等もHPで実施している。</p> <p>A項目②③ 他施設の野外活動情報については、本部から送られてきた他施設のチラシを施設内玄関ホールに置いている。</p>			
【改善すべき点・課題等】					

Ⅲ-5 サービス水準の確保

個々のサービスについて、職員によって格差が生じないように、施設のサービス水準を確保するための取り組みを行っているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	施設のサービス水準を確保するため、標準的な業務実施手順や注意点等がわかりやすく明文化されている。	✓		✓	
	全職員が一貫した認識を共有した上で、サービスを提供している。	✓		✓	
	職員の意見を取り入れながら、標準的な業務実施手順等をスタッフミーティング等において定期的に見直している。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>業務マニュアルに基づき、業務を遂行し、全職員が一貫した認識をもっている。野外施設を対象とした施設長会を事務局で行い、他施設との協議、検討、情報交換を行い、共通理解を図っている。</p> <p>また、利用者のニーズに応えるために県内の他施設と研修会を通じ資質向上を図っている。</p>			<p>【特記事項】</p> <p>・業務マニュアルがあり、①入園時の入園団体への施設利用、スケジュールなどの説明要領、②学園内外での活動を指導する際の指導要領、③刃物(アジの開き教室)の取り扱い要領、③機械設備の取り扱い要領などが分かるように用意されている。</p>		
【改善すべき点・課題等】					

Ⅲ-6 職員間での情報共有化

職員間で、適切に各種情報の共有化が実現されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	情報の流れが明確にされ、必要な情報が職員に的確に届くような体制が整備されている。	✓		✓	
	職員間で、情報共有を目的とした定期的な会議(スタッフミーティング等)が開催されている。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<b>【アピールポイント】</b> 職員連絡ノートを作成して、職員相互で連絡を取り合いながら、ミーティングで確認を行なっている。			<b>【特記事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 職員連絡ノートで情報の共有化が図られている。</li> <li>・ 毎月スタッフミーティングが開催されている。</li> </ul>		
<b>【改善すべき点・課題等】</b>					

Ⅲ-7 個人情報の保護

個人情報の保護に対する体制が整っているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)		
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A		
	横浜市が規定する個人情報取扱特記事項について、年1回以上点検・評価を行っている。	✓		✓			
B	次のすべてに該当する。	✓		✓			
	個人情報を収集する際は必要な範囲内で適切な手段で収集し、目的以外に使用していない。	✓		✓			
	個人情報の取扱いに関するルールやマニュアル等が整備され、管理責任者が特定されている。	✓		✓			
	個人情報の漏洩、滅失、き損及び改ざんの防止、その他の個人情報の適正な管理のために必要な措置を講じている。	✓		✓			
	個人情報の取扱いについて、職員等に対する研修を年1回以上実施し、個別に誓約書を取っている。	✓		✓			
C	A、Bのいずれにも該当しない。						
指定管理者記入欄				第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>当協会として「プライバシーマーク」を取得し、情報の取扱いについて厳格な規程を定め、それに従った取扱いを実施している。また、常に適正な運用を行っているかについて当協会の内部監査も行っている。 認定番号 第14200031(01)号 全職員を対象に年1回定期的に研修を実施している。</p> <p>【改善すべき点・課題等】</p>				<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 体育協会の本部から出張して当施設職員に対する個人情報の取扱いについての研修が行われ、研修後の理解度チェックも行われている。職員の誓約書は体育協会本部で保管されている。当施設での臨時雇職員についても誓約書を取り、これについては当施設で保管している。</li> <li>・ 個人情報の収集時には、目的外使用しない等の注意書きを手交している。施設利用申込書などは鍵のかかる戸棚に保管され、3年の保存期間を過ぎればシュレッダーで裁断している。</li> <li>・ 個人情報の取扱、保管方法について、体育協会本部の監査を受けている。</li> </ul>			

Ⅲ-8 事故防止対策への取り組み

事故防止のための体制の構築・取り組みを行っているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	過去に発生した事故の内容や対応内容(事故発生の場合、他類似施設等における事例の収集など)をもとに、原因分析を実施し、改善のための対応を行っている。	✓		✓	
	施設・設備等の安全性をチェックし、必要に応じて改善している。	✓		✓	
	安全なプログラム提供やサービス内容等チェックし、事故防止策の研修等を実施している。	✓		✓	
B	—				
C	Aのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>事故報告書、事故事例集(ヒヤリハット)を作成し、職員間で検討し類似事故防止策に努めている。また、利用団体の活動計画を把握し、職員が日常清掃点検と併せて学園内外の巡回、連絡ノート、ミーティングなどで危険箇所や注意点を確認し、利用者に情報提供するなど安全に配慮したプログラム活動が出来るようにしている。海で活動する際は、気象情報の確認だけでなく、地元の漁師に話を訊いて情報を集め、危険が高いと判断したときは、活動を中止している。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施設内事故および野外活動中の事故については利用者の疾病を含めて報告書が作成され、再発防止策も記入されている。この報告書および報告書から作成された「ヒヤリハット」を用いて従業員に対する研修が行われている。</li> <li>施設設備の不具合については毎日チェック表を用いてチェックされている。</li> <li>野外活動ごとのマニュアルがあり、そこに事故防止策が記載されており、参加者への注意喚起が行われている。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

Ⅲ-9 事故発生時の対応体制の構築

事故発生時の対応体制が確立しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	施設内で、事故対応責任者が明確になっている。	✓		✓	
	発生した事故内容等についての記録を作成している。(ヒヤリ・ハット集の作成)	✓		✓	
	事故対応策の研修等を実施している。	✓		✓	
B	事故発生時の連絡体制を確保している。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>南伊豆臨海学園緊急連絡体系図により園長及び関係機関へのスムーズな連絡を行っている。類似事故の防止のため、記録(ヒヤリハット集)をもとに職員ミーティングで内容を確認している。</p> <p>AED の取扱いについては研修を行い、全職員が理解している。</p> <p>傷病者発生時には園長の指示に従い、医療機関へ連絡を取っている。軽度な傷病については、できる限り職員が搬送を行なっている。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>救急マニュアルがあり、事故発生時の状況に応じた対応プロセスが記載されている。</li> <li>事故対応責任者は園長であることが明確になっている。</li> <li>疾病を含めて事故報告書が作成されており、再発防止策も記入されている。この報告書は四半期おきに体育協会本部に提出されている。</li> <li>事故発生時の連絡体制も救急マニュアルに記載があり、体育協会本部の連絡先等について周知されている。</li> <li>08. 12. 22に職員 6 名および厨房職員 3 名につき AED 研修が実施された。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>		<p>【推奨事項】 救急マニュアルなど、年に一度はスタッフミーティングで取上げ、内容の理解、確認を繰り返していくことが大切です。</p>			

Ⅲ-10 災害発生時の対応体制の構築

災害発生時の対応体制が確立しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	防災マニュアル等に基づき、避難訓練や防災訓練等を最低年に1回は実施している。	✓		✓	
	災害時の連絡体制や職員の役割分担等が明示されている。	✓		✓	
	地域や関連機関との連携体制を整備している。	✓		✓	
B	防災に関するマニュアル等が整備されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>学園の男性職員は地元消防団員を経験しており、過去には災害現場や火災現場などに出動した経験があるので、災害時には、マニュアルに従い、すばやい対応ができる。消防署へ提出している消防計画では、全職員が揃った際に災害が起きるとは限らないので、最少人数の勤務時等においても臨機応変に対処できるよう、職員ミーティングで確認している。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 消防避難訓練は年2回行われている。そのうち一度は消防署にも通知。一度は体育協会本部主導の訓練。</li> <li>・ 災害対策マニュアルがあり、火災だけではなく、地震発生時の対応も記載されている。</li> <li>・ 夜間宿直者1名しか職員がいない時に火災が発生したときの対応順序・方法につき決められており、職員も理解している。</li> <li>・ 近くに近隣住民の避難場所に指定されている小学校があるが、南伊豆町には当施設の利用者がいない場合には避難場所等として利用してもらっても良い旨の申し入れはしてある。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

Ⅲ-11 利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築及び解決体制

利用者が意見や苦情を述べやすい環境および解決体制が整備されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	利用者が苦情や意見を述べやすいよう、利用者 と対話している。	✓		✓	
	利用者の満足調査等を利用機会毎に実施して いる。	✓		✓	
	利用者からの苦情や意見等が寄せられた際 には、内容を記録し、対応策を講じている。	✓		✓	
	利用者に対し、苦情等への対応手順、担当者 等が明確にされている。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>ご意見箱を設置し、利用者から苦情・要望等の意見を受付けている。利用者にモニタリングを実施し、四半期ごとにまとめている。いただいた意見は担当者が集計・分析をして事務局に報告している。また、職員ミーティングを行い、速やかに対応するとともに、内容を公表している。(例：H20年度にはモニタリングにより、各宿泊室に時計を設置した。)</p> <p>寄せられた意見は定期的に教育委員会に報告している。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>団体利用者、自主事業の参加者からアンケートが取られ、結果が集計されて業務の回善に活用されている。08年5月12日のスタッフミーティングでは教室の内容の改善や、カヤックのパドルの不足への対応が議論されている。</li> <li>08年6月3日のスタッフミーティングでは事故防止策についてされている。</li> <li>アンケート結果は集計され課題を抽出したうえで、年4回体育協会本部に提出されている。自主事業への参加者から集めたアンケート結果は分析され、次年度の自主事業の企画に結び付けられている。</li> <li>寄せられる苦情・要望についての対応責任者、対応方法は文章化されて掲示されている。</li> <li>横浜市指定の書式(様式4)により苦情・要望とそれへの対応について教育委員会に報告されている。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

Ⅲ-12 食事提供の実施

食の安全管理や食べる楽しみを構築しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	食品衛生法、学校給食衛生管理マニュアル等により徹底されている。	✓		✓	
	食品アレルギーに配慮した食事提供がなされている。	✓		✓	
	食べる楽しみを感じる食堂内の雰囲気をかもしだしている。	✓		✓	
	通常の献立以外に地元の食材を利用した、魅力ある料理を提供している。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>利用者の「食の安全」を第一に考え地元食材を調達している。食材の原材料・添加物・アレルギー物質等を公表して、依頼があれば担当の先生や保護者の方と納得がいくまで話し合い相談に応じている。食堂には観葉植物を置くなどくつろいだ雰囲気を演出するとともに食堂のテーブル配置表(名札)にシールを張って楽しい食事にできるようにしている。地元産の食材を使った特別料理も提供し利用者から好評を博している。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食衛生管理マニュアルも参考にして静岡県保健所の指導による衛生チェックリストを使用している。</li> <li>食品アレルギーについては、献立表を事前に施設を利用する団体に送り、相談に応じている。利用者個別の特別メニューについても出来る限り応じている。</li> <li>地元の食材を使った特別料理も提供されており、主として教室参加者やファミリープランの参加者に利用されている。(特別料理を目当てに施設を利用するファミリープランの参加者もいる。)</li> <li>地元の食材を廉価に仕入れる農協・漁協等との取引ルートも開発されている。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

Ⅲ-13 自主事業の適切な実施

利用者の望む自主事業を適切に実施しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	自主事業のサービス内容は、利用者サービスの向上に貢献している。	✓		✓	
	定期的に自主事業の見直しを実施し、利用者のニーズを反映させている。	✓		✓	
B	事業計画書のとおり、事業が実施されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>南伊豆の海を中心とした自主事業(カッター、シーカヤック、釣り)を夏休み中に実施し利用者から好評を博している。通常メニューの他に、南伊豆特産の特別料理を提供している。自主事業の収益は市民利用者に還元している。閑散期対策として家族単位で利用できる日程を設定し、利用促進を図っている。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>自主事業の参加者からアンケートが取られ、結果が集計されて業務の改善に活用されている。</li> <li>自主事業(教室)の参加者は、H17年からH19年の間、215名、260名、295名と増加している。</li> <li>特別料理を目当てに利用する一般利用者もいる。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

Ⅲ-14 自主事業における独自の工夫等

施設目的を達成するため、施設を最大限活用するため、また利用者ニーズに対応するために独自に工夫している点を抽出する。工夫が見られない場合には、その旨についても記述する。

指定管理者記入欄	第三者評価機関記入欄
<p><b>【アピールポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>① 南伊豆の特性を活かし、洋上でのシーカヤックやカッターを中心とした活動により、子供たちの豊かな心を伸ばす活動を心がけている。</li> <li>② 自然体験を通して子供の様子、親の様子を見て感じて、親子の絆を深めるような企画(船釣りやハイキングなど)を実施している。</li> <li>③ 伊勢えびや刺身など地場産品を特別料理として提供している。</li> <li>④ レンタル品として誰でも乗れるシットオンタイプのシーカヤックを貸し出している。</li> <li>⑤ 利用率向上のため、家族利用日を設定している。</li> <li>⑥ 飲料の自動販売機を設置している。</li> </ul>	<p><b>【特記事項】</b></p>

Ⅲ-15 野外活動教室事業の適切な実施

利用者の望む野外活動教室事業を適切に実施しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	野外活動教室事業の対象者は幅広い年齢層を網羅した事業を実施している。	✓		✓	
	定期的に野外活動教室事業の見直しを実施し、利用者のニーズを反映させている。	✓		✓	
B	事業計画書で提案された教室実施方針に基づいて各教室が運営されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>子供を対象とした教室を1つ、親子・家族対象を対象とした教室を7つ企画し、学校利用のない日と参加しやすい日程を考慮して開催している。家族向け教室は、乳幼児から大人まで細かい参加費設定をし、できる限り安価な料金で参加ができるようにしている。</p> <p>前年度参加者のアンケート結果をふまえ、日程、料金、プログラム等の教室内容を見直している。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小中学生と高齢者を含むその家族が参加できるような野外活動教室が設定されている。</li> <li>自主事業の参加者からアンケートが取られ、結果が集計されて業務の回善に活用されている。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

Ⅲ-16 利用者支援業務の実施（施設全体）

すべての利用者が施設を快適に利用できるよう、利用者支援業務を適切に実施しているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	定期的に利用者支援業務内容の見直しを実施し、利用者のニーズを取り入れた工夫がされている。	✓		✓	
B	事業計画書のとおり、事業が実施されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄			
<p>【アピールポイント】</p> <p>利用者のニーズに対応するために下見の時には利用の手引きや施設のCDを渡して、利用者が施設を快適に利用できるよう助言をしている。また、利用者の要望があれば南伊豆町の公共施設の借入手続きを、町役場と折衝している。</p> <p>カッター指導員として地元の人材を講師としてお願いしている。</p>		<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左記のほかに、学校利用の場合、施設到着後速やかに団体指導者に対し、滞在中のスケジュール・活動内容についてのガイダンスを与えている。</li> <li>ウォークラリーのポイントの設定を団体利用の指導者の為に行い案内している。</li> </ul>			
<p>【改善すべき点・課題等】</p>					

## IV. 地元の町・村及び横浜市等との交流・連携

### IV-1 地元の町・村及び地域との交流・連携

施設は地元の町・村と横浜市との連携及び地元の特性を生かした運営ができていますか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	次のすべてに該当する。	✓	A	✓	A
	地元と横浜市の連結役となる事業を行っている。	✓		✓	
	地元の特性を生かしたプログラム展開をして、地元の自然等を熟知した指導者を活用している。	✓		✓	
	地元から食材等を購入している。	✓		✓	
	【南伊豆臨海学園のみ】 子浦港の清掃活動に協力している。	✓		✓	
B	Aの中でいずれか1つは該当する。				
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<p>【アピールポイント】</p> <p>地元の小学5年生を対象とした社会科見学を兼ねての来浜事業を実施し、好評を得ている。</p> <p>地元小学生を対象としたふるさと学級の夏キャンプや三浜小・南上小のカヤック教室などを受け入れ職員が指導を行っている。</p> <p>他にも職員は消防団員・民生委員・スポーツ指導員として南伊豆町のボランティア活動を行っている。</p> <p>夏季中は定期的子浦港のトイレ清掃を職員が行っている。</p>			<p>【特記事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>左の【アピールポイント】に記されているとおりです。</li> <li>指定管理者である横浜市体育協会の責任者も現地の役場を度々訪問し関係を維持している。</li> <li>施設の職員が全員現地在住者であることから、現地との交流・連携は非常にスムーズです。</li> </ul>		
【改善すべき点・課題等】					

## V. 収支状況

### V-1 指定管理料の執行状況

指定管理料は適正に執行されているか。

判断基準		指定管理者記入欄		第三者評価機関記入欄	
		チェック欄	評価(A・B・C)	チェック欄	評価(A・B・C)
A	Bに該当の上、外部の監査を受けている。	✓	A	✓	A
B	次のすべてに該当する。	✓		✓	
	適切な経理書類が作成されている。	✓		✓	
	経理を担当する職員を配置している。	✓		✓	
	収支決算書に記載されている費目に関し、伝票が存在する。	✓		✓	
	通帳や印鑑などが適切に管理されている。	✓		✓	
C	A、Bのいずれにも該当しない。				
指定管理者記入欄			第三者評価機関記入欄		
<b>【アピールポイント】</b> 協会独自の会計システムを導入し、書類等の作成から経費の支出までをこれにより行っている。支出手続きについては、施設と事務局にて相互牽制して行っており、最終的な出納処理は事務局にて一元的に行っているほか、施設で収納された金銭は引き出しができないシステムになっている等、収支の適正管理に努めている。			<b>【特記事項】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>支払は体育協会の経理システムを使って、支払伺いをインプットすることにより、協会の経理部門が審査し本部の銀行口座から支払われている。</li> <li>小口の支払いについては10万円の小払い口座から行われているが支払内容については毎月体協本部に領収書とともに提出されている。</li> <li>施設で受領する利用料金は施設の「収入口」口座に入金され、毎月、利用料金の報告書を体協本部に提出し「収入口」口座から振替えられている。利用料金の請求書・領収書ともに体協本部の経理システムで作成される。</li> <li>横浜市体育協会の決算計算書については独立監査法人の監査を受けている。当施設の消費税計算書は公認会計士のチェックを受けた上で税務署に提出されている。</li> </ul>		
<b>【改善すべき点・課題等】</b>					

## V-2 収支決算状況

予算と決算に大幅な相違がないか。収入－支出がプラスになっているか。

平成 19 年度

確認事項	
(予算収入 97,415,000円) - (決算収入 101,185,679円) = Δ3,770,679円	
(予算支出 97,415,000円) - (決算支出 99,976,911円) = Δ2,561,911円	
(決算収入 101,185,679円) - (決算支出 99,976,911円) = 1,208,768円	
指定管理者記入欄	第三者評価機関記入欄
<p>【特記事項】 上記金額は事業報告書の金額から、自主事業還元収入及び自主事業還元分支出を除いた金額です。</p>	<p>【特記事項】</p> <p>1. 先ず上記「確認事項」欄記載の数字を指定管理者の本勘定(自主事業以外の収支)と自主事業勘定に分別します。</p> <p>・上記決算収入の内訳: 本勘定収入(=利用料収入+指定管理費) 実績 92,821 千円 (予算 90,970 千円) 自主事業収入 実績 8,365 千円 (予算 6,445 千円)</p> <p>・上記決算支出の内訳は: 本勘定費用 実績 94,606 千円 (予算 91,929 千円) 自主事業経費 実績 5,371 千円 (予算 5,486 千円)</p> <p>・従って、収支残の内訳は: 本勘定収支残 = -1,785 千円(予算 -959 千円) 自主事業収支残 = 2,994 千円(予算 959 千円) 収支残合計 = 1,209 千円(予算 0)</p> <p>2. 上記のとおり予算では、本勘定で 959 千円の赤字が出るが自主事業で同額の利益を出して収支トントンとする計画であった。 実績では、本勘定の赤字巾-1,785 千円は予算を上回ったが、自主事業で本勘定の赤字を上回る収支残 2,994 千円を残したことにより、全体の収支の黒字を達成したと評価できる。</p> <p>3. 自主事業の収入 8,365 千円は前年比 114.9%伸びており、中でも野外活動教室の参加費収入は前年比 122.7%、特別料理等飲食事業の収入は前年比 130.5%の高い伸びを記録している。指定管理者がこれらの自主事業収入の増加に努めた結果として、全体の収支の黒字を達成している。</p>

## V-3 自主事業収入実績

事業計画書等で示した自主事業収入の目標値がどの程度達成されているか。

平成 19 年度

事業計画書等で示した目標値	達成割合(利用料金収入/目標値×100)
6, 445, 000	$8, 365, 165 \div 6, 445, 000 = 129.79\%$
指定管理者記入欄	第三者評価機関記入欄
<p>【アピールポイント】</p> <p>教室事業収入は予算に比しマイナスであったが、飲食、物販事業が好調のため、自主事業収入が予算に比し大幅に増えた。</p>	<p>【特記事項】</p> <p>事業報告書に拠れば次のとおりです。</p> <p>教室事業収入: 対前年比 122.7%、対予算比 86.4%</p> <p>飲食事業収入: 対前年比 130.5%、対予算比 219.7%</p> <p>物販事業収入: 対前年比 82.0%、対予算比 144.4%</p> <p>自主事業収入計: 対前年比 114.9%、対予算比 129.8%</p> <p>自主事業全体の収入は、前年実績、予算を大幅に上回って達成しています。</p> <p>【勸奨事項】予算額が前年実績値を下回って設定されています。今後予算の立て方を再検討すべきと思います。</p>
<p>【改善すべき点・課題】</p>	

## V-4 経費節減の取り組み

経費節減のための努力を行っているか。

指定管理者記入欄	第三者評価機関記入欄
<p>【アピールポイント】</p> <p>光熱水費節減のために、電球を節電タイプのものに順次切り替えている。</p> <p>ミスコピー紙を再利用している。</p> <p>風呂の稼働時間を調節している。</p> <p>入園式で節電・節水を促している。</p> <p>小破修理は可能な限り職員で行い、リサイクル可能な物は使用して支出の抑制を図り、物品購入にあたっては、廉価な店での購入に努めている。</p>	<p>【特記事項】</p> <p>・左のアピール欄に記載の事項につき現地で確認しました。</p>
<p>【改善すべき点・課題】</p>	

## VI. その他

I～Vの評価項目では評価しきれなかった特筆事項（施設独自の工夫など）や改善すべき点について。

指定管理者記入欄	第三者評価機関記入欄
<p><b>【アピールポイント】</b></p> <p>当協会のスケールメリットを活かした施設の管理体制により、安全、安心な施設環境を提供している。また、協会のネットワークを使った自主事業の広報やHPの充実により、閑散期のフリープランの利用者が増えてきている。南伊豆町の特性を活かした運営をおこなうため、積極的に地元人材を雇用し、地域に根ざした運営を心がけている。地元との連携をうまくとりながら、引き続き、横浜市と南伊豆町との友好関係をさらに深くするための連結役として努力していく。また、学校利用の窓口である「横浜市小学校校長会」とも密に連絡をとりながら、利用調整行ない、今後の収入増につなげていきたい。</p>	<p><b>【特記事項】</b></p> <p>(1) 横浜市の青少年の自然・環境教育の一環を担う施設として南伊豆町在住の職員により、地元の協力連携を得ながら運営されている有意義な施設としました。学校の年間行事日程上、学校が本施設を利用する期間は限られており(4月～11月)、当該期間中は本施設はフル稼働しています。そのような学校利用の実態から、年間を通じての施設利用人員率は41%と低くならざるを得ないこととなります。今後も夏休み期間を含む学校利用がない期間における、野外活動教室や、家族フリープランの利用拡大で施設稼働率、利用者人数の向上増加に努めていくべきと思います。</p> <p>(2) 一方で自主事業(野外活動教室)、家族フリープランの場合の利用料金については、教育の一環として行われる学校の優先利用とは別の利用料金体系として、施設の維持管理費用および施設職員の人件費の一部を利用者で負担して貰うべきではないかと思います(現行の条例が障害になる、とのお話は伺いましたが)。本施設は大変に立派な建物ですが老朽しており、今後多額の改修費用を要します。その費用の一部でも、そのようにして得られる利用料金収入を当てる発想が必要なのではないかと、僭越ながら思いました。</p>
<p><b>【改善すべき点・課題】</b></p>	

## VII. 評価結果のまとめ

## 横浜市少年自然の家 評価結果一覧表

施設名: 横浜市少年自然の家 南伊豆臨海学園

評価機関名: 東京海上日動ファシリティーズ 株式会社

評価項目		指定管理者 自己評価結果	評価機関 評価結果
<b>I. 総則</b>		A	A
1.施設の目的や基本方針の確立	横浜市少年自然の家の設置目的に基づいた管理運営上の基本方針が確立されており、職員が理解しているか	A	A
2.施設目的の達成度	施設の管理運営を通して、施設目的を達成できているか	A	A
3.職員の勤務実績、配置状況	管理職を含む常勤職員及び非常勤職員の勤務実績、配置状況は適切か	A	A
4.職員のマナー	利用者が気持ちよく利用できるよう、利用者に対する職員の接客マナーは適切か	A	A
5.開館の実績	仕様書に定められた、もしくは事業計画書のとおり開館しているか	A	A
<b>II. 施設・設備の維持管理</b>		A	A
1.建物・設備の保守点検	建物・設備が適切に管理され、安全性の確保及び良好な機能の保持が実現されているか	A	A
2.備品の管理	備品が適切に管理されているか	A	A
3.清掃業務	利用者が快適に利用できるような状態が保持されているか	A	A
4.警備業務	安全で安心感のある環境を確保しているか	A	A
5.外構施設の保守点検	安全性が確保され、良好な機能が保持されているか	A	A
6.植栽・樹木等の維持管理	利用者が快適に過ごせるような良好な景観が保たれているか	A	A
7.厨房施設の衛生管理業務	厨房施設の衛生管理が適切に実施され、常に清潔な状態が保持されているか	A	A
8.ゴミゼロ推進運動への取組み	横浜G30プランに則ったゴミゼロ推進運動へ取り組んでいるか	A	A
<b>III. 運営及びサービスの質の向上</b>		A	A
1.利用実績及び施設の稼働率	評価実施直前の2年間の施設稼働率及び利用実績の推移につき、半期毎の状況を確認しているか		
2.利用しやすい施設案内の実施	利用者が利用しやすい施設案内を実施しているか	A	A
3.適切な利用情報の提供	全ての利用者が等しく利用情報を得ることができるよう、適切な利用情報の提供を行っているか	A	A
4.情報提供の実施	当該施設について、広報誌やPR誌を作成するなど、具体的な取組みを実施し、潜在的な利用者にアピールしているか。	A	A
5.サービス水準の確保	個々のサービスについて、対応職員によって格差が生じないよう、施設のサービス水準を確保するための取組みを行っているか	A	A
6.職員間での情報共有化	職員間で、適切に各種情報の共有化が実現されているか	A	A
7.個人情報の保護	個人情報の保護に対する体制が整っているか	A	A
8.事故防止対策への取組	事故防止のための体制の構築・取組みを行っているか	A	A
9.事故発生時の対応体制の構築	事故発生時の対応体制が確立されているか	A	A
10.災害発生時の対応体制の構築	災害発生時の対応体制が確立しているか	A	A
11.利用者の意見・苦情を抽出する仕組みの構築及び解決体制	利用者が意見や苦情を述べやすい環境および解決体制が整備されているか	A	A
12.食事提供の実施	食の安全管理や食べる楽しみを構築しているか	A	A
13.自主事業の適切な実施	利用者の望む自主事業を適切に実施しているか	A	A
14.自主事業における独自の工夫等	施設目的を達成するため、施設を最大限活用するため、また利用者ニーズに対応するために独自に工夫しているか		
15.野外活動教室事業の適切な実施	利用者の望む野外活動教室事業を適切に実施しているか	A	A
16.利用者支援業務の実施(施設全体)	すべての利用者が施設を快適に利用できるよう、利用者支援業務を適切に実施しているか	A	A
<b>IV. 地元町・村及び横浜市等との交流・連携</b>		A	A
1.地元町・村と地域との交流・連携	施設は地元町・村と横浜市等との連携及び地元の特性を生かした運営ができていますか	A	A
<b>V. 指定管理料の施行状況</b>		A	A
1.指定管理料の執行状況	指定管理料は適正に執行されているか	A	A
2.収支決算状況	収入-支出がプラスになっているか	+	+
3.自主事業収入実績	事業計画書等で示した自主事業収入の目標値がどの程度達成されているか	A	A
4.経費節減状況	経費節減のための努力を行っているか		

## 横浜市少年自然の家 評価総括

項目	指定管理者自己評価	第三者評価機関特記事項
I. 総則	基本方針を常に念頭に置き、利用者が安心して満足できる少年自然の家を目指し運営をしている。	施設の目的を良く理解し、主たる利用者である青少年の安全に大変気を配っている。
II. 施設・設備の維持管理	事業計画書に従い実行しているが利用者の大半を占める子どもたちがより安全で衛生的に利用できるよう努めている。	建物の老朽化が進んでいるが、利用者の安全を損なわないように、かつ清潔感をなくさないように維持されています。活動用のカヤック、カッターの維持管理についても専門知識を有した地元職員がキチンと実施しており安心感があります。
III. 運營業務及びサービスの質の向上	広報誌やHPなどで施設概要や活動内容をPRし年間を通して利用いただけるように努めている。	一見してよく使用されていることが分かる職員用の業務マニュアルには、学園内の施設の利用について支障がないような情報が盛り込まれているほか、種々の活動を指導する際の要領も含まれて居ます。
IV. 地元の町・村及び横浜市等との交流・連携	地元との交流を深めるため、小学校のカヤック教室を行なっている。また横浜のよさ、そして南伊豆の自然の良さを再確認できるように、地元役場と協力・連携して交流事業を行なっている。	本施設は地元の理解協力を得ないと運営できない施設であり、地元の行政との連携がしっかり行われています。地元の漁業関係者の業務に支障を生じないようにカヤックやカッターの活動を管理し、一方で地元住民の協力を得ることができています。
V. 収支状況	定期的にチェックし適正な執行を心がけている。支出については事務局経理課で適切に処理されている。	指定管理者制度への以降以来、自主事業の増収、経費の節減に努め、安定した収支残を残しています
VI. その他		大変に立派な建物ですが、老朽化が進んでいます。建物の維持上必要な定期的な防水、塗装などの改修が行われた形跡がなく、このまま放置すれば折角の建物躯体が傷んでしまいます。今後指定管理者としては市と予算交渉を行いしっかり改修して行くべきと考えます。 自然・環境教育の一環として行われている学校による優先利用以外の団体利用、家族利用については利用料体系を別にして利用料収入を増や

		<p>し、建物の改修維持の費用に当てるという発想も必要なのではないかと、僭越ながら思いました。</p>
--	--	-----------------------------------------------------

評価結果についての講評

本施設は横浜市と南伊豆町の協力関係の下で、南伊豆町在住の職員によって地元団体・住民の協力を得ながら運営されている。横浜市の小・中学生の為に自然・環境教育の場として、学校の活動可能期間にはフルに活用されている実績がある。海、山の活動ともに地元で自然の怖さを熟知した職員が安全を重視して管理しており施設開設以来、重大な事故は起こっていない。職員は施設の管理運営だけではなく、種々の野外活動、自主事業として行う教室の指導者の役割を果たしており、職員のその面での業務知識も維持向上されている。職員の方が横浜市の青少年の為にモラルを高く持って運営されている施設だと思えます。横浜市の青少年は地元のプロの指導を受けて安全に海での野外活動を経験できます。横浜市の青少年や、その保護者に、もっともこの施設の存在を知ってもらいたいし、利用してもらいたいと思う施設です。

指定管理者からの意見

今回行っていただいた第三者評価機関からのご意見は、とても参考になりました。そして今回の評価を通じて、普段、行っている業務の再認識や、新たな視点に気づくことができ、とても有意義な機会を持つことができました。指摘事項については速やかに改善に取り組み、より安全で安心して利用できる施設を目指します。また、多くの市民の方々にご利用いただけるよう引き続き、当学園の広報に努めます。また、これからも地元・南伊豆町との橋渡し役を率先して行い、南伊豆町の大自然を1人でも多くの市民に実感していただけるよう、種々の野外活動プログラムの提供を図ってまいります。今後もご利用いただく市民の皆さん一人ひとりに楽しい野外活動や思い出づくりができるよう、職員全員で努力してまいります。

【別紙】

平成18年度 4月～9月利用状況

施設名 (南伊豆臨海学園)

区分	日帰利用		宿泊利用			4月～9月合計			年度累計			
	団体数	実人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	
学 校	1幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2小学校	1	72	60	6,260	18,780	61	6,332	18,852	61	6,332	18,852
	3中学校	0	0	3	364	1,092	3	364	1,092	3	364	1,092
	4高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	5特別支援学校	0	0	1	10	30	1	10	30	1	10	30
	6大学・専門学校	0	0	1	45	135	1	45	135	1	45	135
計	1	72	65	6,679	20,037	66	6,751	20,109	66	6,751	20,109	
青 少 年	7青少年団体	0	0	3	131	418	3	131	418	3	131	418
	8青少年グループ	0	0	5	203	690	5	203	690	5	203	690
	9機関団体事業	0	0	5	456	1,791	5	456	1,791	5	456	1,791
	計	0	0	13	790	2,899	13	790	2,899	13	790	2,899
一 般	10職域	0	0	2	71	394	2	71	394	2	71	394
	11地域	0	0	2	125	375	2	125	375	2	125	375
	12家族・グループ	0	0	11	87	235	11	87	235	11	87	235
	計	0	0	15	283	1,004	15	283	1,004	15	283	1,004
そ の 他	13指導者団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14自主事業	0	0	5	245	775	5	245	775	5	245	775
	15視察・下見・見学	40	131	2	99	198	42	230	329	42	230	329
	16その他	0	0	2	94	342	2	94	342	2	94	342
	計	40	131	9	438	1,315	49	569	1,446	49	569	1,446
4月～9月合計	41	203	102	8,190	25,255	143	8,393	25,458	143	8,393	25,458	
年度累計	41	203	102	8,190	25,255	143	8,393	25,458	143	8,393	25,458	

※1 施設利用日数率＝利用日数／開所日数×100 (%)

※2 施設利用人員率＝延利用人員／(定員×開所日数)×100 (%)

1. 開所日数及び施設利用日数率※1

開所日数	178	利用日数	160
開所累計	178	利用累計	160

施設利用日数率 89.9%

2. 施設利用人員率※2

	団体数	利用人員	利用率
実数	143	8,393	
延数		25,458	72%

3. 男女別の延人数(今年度)

	男性	女性	合計
幼稚園	0	0	0
小学校	9,684	9,168	18,852
中学校	540	552	1,092
高等学校	0	0	0
特別支援	24	6	30
大学等	108	27	135
青少年	1,676	1,223	2,899
一般団体	428	576	1,004
その他	716	703	1,419
合計	13,176	12,255	25,431

4. 宿泊別(今年度)

	団体数	実人数	延人数
日帰り	34	176	176
1泊2日	7	280	560
2泊3日	85	7,345	22,035
3泊4日	8	309	1,236
4泊以上	2	256	1,424
合計	136	8,366	25,431

## 平成18年度 10月～3月利用状況

施設名 (南伊豆臨海学園)

区 分	日帰り利用		宿泊利用			10月～3月合計			年度累計		
	団体数	実人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員
1 幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2 小学校	1	38	8	838	2,514	9	876	2,552	70	7,208	21,404
3 中学校	0	0	2	94	260	2	94	260	5	458	1,352
4 高等学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	0	1	10	30
6 大学・専門学校	0	0	1	40	280	1	40	280	2	85	415
計	1	38	11	972	3,054	12	1,010	3,092	78	7,761	23,201
7 青少年団体	0	0	0	0	0	0	0	0	3	131	418
8 青少年グループ	0	0	0	0	0	0	0	0	5	203	690
9 機関団体事業	0	0	1	56	224	1	56	224	6	512	2,015
計	0	0	1	56	224	1	56	224	14	846	3,123
10 職域	0	0	0	0	0	0	0	0	2	71	394
11 地域	1	40	0	0	0	1	40	40	3	165	415
12 家族・グループ	0	0	3	17	38	3	17	38	14	104	273
計	1	40	3	17	38	4	57	78	19	340	1,082
13 指導者団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14 自主事業	0	0	2	15	45	2	15	45	7	260	820
15 視察・下見・見学	4	29	0	0	0	4	29	29	46	259	358
16 その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	94	342
計	4	29	2	15	45	6	44	74	55	613	1,520
10月～3月合計	6	107	17	1,060	3,361	23	1,167	3,468	166	9,560	28,926
年度累計	47	310	119	9,250	28,616	166	9,560	28,926	166	9,560	28,926

※1 施設利用日数率 = 利用日数 / 開所日数 × 100 (%)

※2 施設利用人員率 = 延利用人員 / (定員 × 開所日数) × 100 (%)

開所日数及び施設利用日数率<sup>※1</sup>

開所日数	168	利用日数	47
開所累計	168	利用累計	47

施設利用日数率 28.0%

施設利用人員率<sup>※2</sup>

	団体数	利用人員	利用率
延人数	23	1,167	10%
延人数		3,468	10%

3. 男女別の延人数(今年度)

	男性	女性	合計
幼稚園	0	0	0
小学校	1,335	1,217	2,552
中学校	220	40	260
高等学校	0	0	0
特別支援	0	0	0
大学等	224	56	280
青少年	120	104	224
一般団体	34	44	78
その他	45	29	74
合計	1,978	1,490	3,468

4. 宿泊別(今年度)

	団体数	実人数	延人数
日帰り	6	107	107
1泊2日	3	71	142
2泊3日	11	857	2,571
3泊4日	2	92	368
4泊以上	1	40	280
合計	23	1,167	3,468

## 平成19年度 4月～9月分利用状況

施設名 (南伊豆臨海学園)

区分	日帰利用		宿泊利用			4月～9月合計			年度累計		
	団体数	実人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員
学 校	1 幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	2 小学校	1	37	60	6,182	18,469	61	6,219	18,506	61	6,219
	3 中学校	0	0	2	324	972	2	324	972	2	324
	4 高等学校	0	0	1	27	54	1	27	54	1	27
	5 特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6 大学・専門学校	0	0	2	83	207	2	83	207	2	83
	計	1	37	65	6,616	19,702	66	6,653	19,739	66	6,653
青 少 年	7 青少年団体	0	0	2	48	129	2	48	129	2	48
	8 青少年グループ	0	0	1	42	126	1	42	126	1	42
	9 機関団体事業	0	0	3	352	1,517	3	352	1,517	3	352
	計	0	0	6	442	1,772	6	442	1,772	6	442
一 般	10 職域	0	0	1	39	78	1	39	78	1	39
	11 地域	0	0	2	120	360	2	120	360	2	120
	12 家族・グループ	1	13	23	295	900	24	308	913	24	308
	計	1	13	26	454	1,338	27	467	1,351	27	467
そ の 他	13 指導者団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	14 自主事業	0	0	5	229	733	5	229	733	5	229
	15 視察・下見・見学	67	245	2	89	178	69	334	423	69	334
	16 その他	0	0	1	62	248	1	62	248	1	62
	計	67	245	8	380	1,159	75	625	1,404	75	625
4月～9月合計		69	295	105	7,892	23,971	174	8,187	24,266	174	8,187
年度累計		69	295	105	7,892	23,971	174	8,187	24,266	174	8,187

※1 施設利用日数率 = 利用日数 / 開所日数 × 100 (%)

※2 施設利用人員率 = 延利用人員 / (定員 × 開所日数) × 100 (%)

### 1. 開所日数及び施設利用日数率<sup>※1</sup>

開所日数	179	利用日数	149
開所累計	179	利用累計	149

施設利用日数率 83.2%

### 2. 施設利用人員率<sup>※2</sup>

	団体数	利用人員	利用率
実数	174	8,187	68%
延数		24,266	

### 3. 男女別の延人数(今年度)

	男性	女性	合計
幼稚園	0	0	0
小学校	9,484	9,022	18,506
中学校	528	444	972
高等学校	48	6	54
特別支援	0	0	0
大学等	125	82	207
青少年	1,054	718	1,772
一般団体	687	664	1,351
その他	797	607	1,404
合計	12,723	11,543	24,266

### 4. 宿泊別(今年度)

	団体数	実人数	延人数
日帰り	69	295	295
1泊2日	13	384	768
2泊3日	86	7,046	21,138
3泊4日	5	245	980
4泊以上	1	217	1,085
合計	174	8,187	24,266

## 平成19年度 10月～3月利用状況

施設名 (南伊豆臨海学園)

区分	日帰利用		宿泊利用			10月～3月合計			年度累計			
	団体数	実人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	団体数	実人員	延人員	
学 校	1幼稚園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	2小学校	1	44	8	926	2,806	9	970	2,850	70	7,189	21,356
	3中学校	0	0	1	39	156	1	39	156	3	363	1,128
	4高等学校	0	0	1	26	104	1	26	104	2	53	158
	5特別支援学校	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6大学・専門学校	0	0	1	46	368	1	46	368	3	129	575
計	1	44	11	1,037	3,434	12	1,081	3,478	78	7,734	23,217	
青 少 年	7青少年団体	0	0	1	64	192	1	64	192	3	112	321
	8青少年グループ	0	0	0	0	0	0	0	1	42	126	
	9機関団体事業	0	0	1	56	224	1	56	224	4	408	1,741
	計	0	0	2	120	416	2	120	416	8	562	2,188
一 般	10職域	0	0	0	0	0	0	0	1	39	78	
	11地域	0	0	1	33	66	1	33	66	3	153	426
	12家族・グループ	0	0	27	152	338	27	152	338	51	460	1,251
計	0	0	28	185	404	28	185	404	55	652	1,755	
そ の 他	13指導者団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	14自主事業	0	0	3	66	198	3	66	198	8	295	931
	15視察・下見・見学	10	49	0	0	0	10	49	49	79	383	472
	16その他	0	0	0	0	0	0	0	0	1	62	248
計	10	49	3	66	198	13	115	247	88	740	1,651	
10月～3月合計	11	93	44	1,408	4,452	55	1,501	4,545	229	9,688	28,811	
年度累計	80	388	149	9,300	28,423	229	9,688	28,811	229	9,688	28,811	

※1 施設利用日数率＝利用日数／開所日数×100（％）

※2 施設利用人員率＝延利用人員／（定員×開所日数）×100（％）

### 1. 開所日数及び施設利用日数率<sup>※1</sup>

開所日数	169	利用日数	76
開所累計	169	利用累計	76

施設利用日数率 45.0%

### 2. 施設利用人員率<sup>※2</sup>

	団体数	利用人員	利用率
実数	55	1,501	
延数		4,545	13%

### 3. 男女別の延人数(今年度)

	男性	女性	合計
幼稚園	0	0	0
小学校	1,563	1,287	2,850
中学校	156	0	156
高等学校	96	8	104
特別支援	0	0	0
大学等	256	112	368
青少年	114	302	416
一般団体	222	182	404
その他	114	133	247
合計	2,521	2,024	4,545

### 4. 宿泊別(今年度)

	団体数	実人数	延人数
日帰り	11	93	93
1泊2日	23	227	454
2泊3日	16	988	2,964
3泊4日	3	121	484
4泊以上	2	72	550
合計	55	1,501	4,545

